



さとう いくお
佐藤 郁夫
(市民クラブ)

- 多面的支払制度の取り組みは
- 汚染牧草の前処理施設の建設はいつか

質問 新たな制度として創設された「多面的機能支払制度」は農地保全、景観形成、施設の長寿命化等の観点から積極的に取り組むべきと考えるが、その取り組み状況は。

市長 本制度は①農地維持支払活動（農地の草刈り、水路の草刈り等）、②共同活動（水路、農道等の軽微な補修等）、③施設の長寿命化（水路の更新、農道の大規模補修等）の3段階となっている。8月22日現在①は申請件数67件、交付額3億2200万円、②は申請件数43件、交付額1億8千万円、③は申請件数49件、交付額2億6600万円となっている。対象農地面積に対する申請割合は約60%となっている。申請受付を9月末まで延長し、制度の説明を徹底する等取り組みを強化していく。なお、事務が煩雑なため役員のなり手がない等の問題もあるため、土地改良区、農協と連携をとり出来るだけ取り組み可能とするよう努力していく。



焼却処理が待たれる汚染牧草

質問 汚染牧草の処理施設の建設が遅れているが、その建設時期と処理完了の予定は。

市長 地域の合意を得ている江刺区玉里に、汚染牧草を処理する前段に必要な「裁断処理」をする「前処理施設」を建設することについて、国の考え方と本市の考え方に相違があり、協議に時間を要している。現在詰め段階に入っているが、現段階で本年10月着工、12月完成を目指している。汚染牧草処理は来年1月から着工し、約10か月を見込んでいる。



きくち としみ
菊池 利美
(新世会)

- 前沢診療所の経営状況は
- みなし宅地並課税の現状は

質問 前沢診療所の正確な経営状況はどうなっているのか。患者一人当たりの税金投入額はいくらか。

市長 診療収入の合計額は3億1098万円であり、それに対する総務費が2億7429万円、医業費が1億9871万円、施設整備費148万円、公債費の利子が1803万円、減価償却費が3339万円で、合計5億2590万円が総費用。以上の結果から、市からの持ち出し額は2億1492万円となり、患者数の810人で割ると一人当たりの市税の負担額は27万円弱と計算される。

質問 前沢診療所からの転院者のその後の状態を調査していると思うが、結果はどうか。

市長 転院者のアンケート調査は実施していない。

※市では、後日転院者（200名を抽出）に対するアンケート調査を実施した。結果については、現在集計・分析中であり、後日公表される。調査項目は、①性別・年齢・居住区。②転院によって増えた負担。③転院により困ったこと。良かったこと。④診療所が再開した場合の受診は。



産廃処分場も宅地並課税

質問 固定資産税の課税標準額の各区でのアンバランスが生じていないか。みなし宅地並課税で問題は生じていないか。

市長 固定資産税の課税に当たっては厳格な基準にそって課税しているので、区ごとで差が生じることはない。みなし宅地並課税は市内で3千12箇所あり特にトラブルは発生していない。